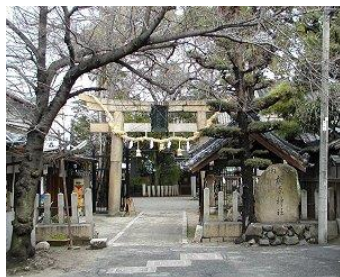


[4] 平野区南部

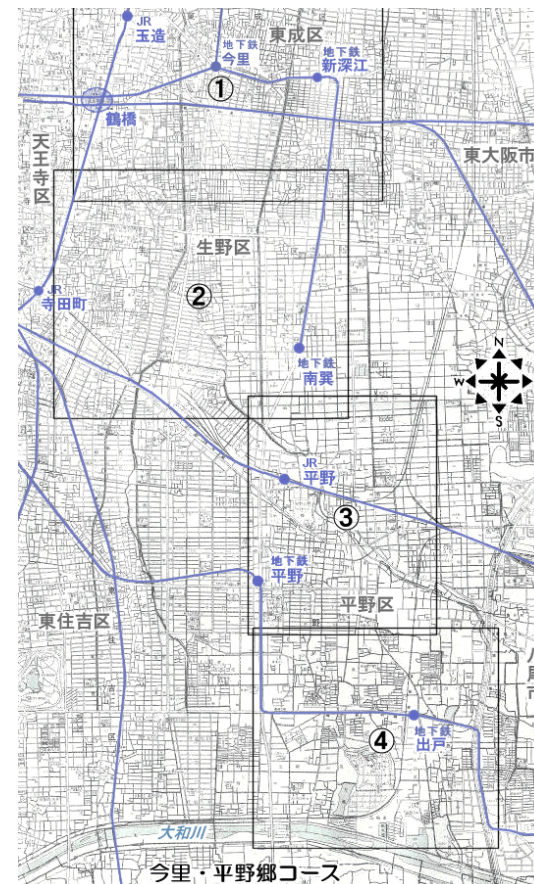
- 30 如願寺 (平野区喜連六丁目 1-38)
- 31 楯原神社 (平野区喜連六丁目 1-38)
- 32 瓜破天神社 (平野区瓜破五丁目 4-19)
- 33 敬正寺 (平野区瓜破東五丁目 5-10)
- 34 花塚山古墳: 直径 25m、高さ 2.5mの円墳で、5世紀ごろ築造と思われる。また幅 5m程度の周濠があったと推定されている。本格的な発掘調査が行われていないので、内部構造はわからないが、頂上部には木棺などの遺物があるものと推定されている。
(平野区瓜破東四丁目、瓜破霊園北東入口内)
- 35 長原高廻り古墳群: 長原付近には 300~500 基に及び小型古墳があったと推定されている。しかし小型古墳にもかかわらず、出土する埴輪は大王級の大型古墳に匹敵するほどの種類と出来栄を持つ。特に高廻り 2 号墳からは 5 世紀前半の、現在知られる最大の船の埴輪が出土している。
(平野区长吉長原二丁目、なみはや公園南西角)

中高野街道

中高野街道は、守口から大阪市の東辺を南下し、瓜破から松原市に至る旧街道で、この「今里・平野郷コース」を縦断している。農村地帯であったこの地域も近年の開発によってすっかり様変わりしてしまっただが、楯原神社付近では古い町並みを見ることができる。



31 楯原神社



サイン柱と つたい石

歴史の散歩道には散策の助けとなるよう、「サイン柱」と「つたい石」の設置を進めています。これを目印にお歩きください。



旧タイプ



新タイプ



[1] 東成区・生野区北部

- 1 **二軒茶屋跡・石橋日跡**：ここは大阪から暗越奈良街道を利用して奈良・伊勢方面へ旅立つ出発点になっていた。街道を挟んで「つる屋」「ます屋」の2軒の茶店があり、見送る人と別れを惜しんだり、名物の「深江の菅笠」を求めたりした場所である。碑の東側の道路は旧猫間川の跡で、大阪で最初ともいわれる石橋が架かっていた。碑の石材はその石の残石である。
(東成区東小橋一丁目1-5)
- 2 **妙法寺 契中遺跡**：和学者契中が11歳のときに得度したところである。契中はその後この寺の住職を務め、代表作「万葉代匠記」はここで執筆された。(東成区大今里四丁目16-50)
- 3 **法明寺** (東成区深江南三丁目16-28)
- 4 **摂津笠縫村跡・深江菅笠ゆかりの地**：この付近は大和笠縫の子孫が古くから移住したところと伝えられている。「菅の里」の別名があり、近辺のほとんどの人たちが笠づくりに従事していた。笠づくりの最盛期は江戸時代で、伊勢参りの道中用に使われた。また、伊勢神宮の式年遷宮と天皇即位式大嘗祭で使われる笠は、今でもここから収められている。
(東成区深江南三丁目16、深江稻荷神社前)
- 5 **清見原神社** (生野区小路二丁目24-34)
- 6 **翠岩墓所**：江戸時代中期 当地に生まれた翠岩は、俗名を住吉屋太郎衛門といい、社会事業家として道路の整備や架橋を行うなど、村に尽くした篤志家であった。(生野区中川東二丁目7-30)



2 妙法寺 契中遺跡



4 摂津笠縫邑跡
深江菅笠ゆかりの地



23 全興寺



平野のまちかど